

令和6年1月発行

2024年、新しい年がスタートしました。日頃より、子どもや保護者へ惜しみない愛情を注ぎながら幼児教育・保育にご尽力いただき、誠にありがとうございます。
今年も、よりよい教育・保育に向けて、巡回相談や研修、またその他の相談業務等を通してお手伝いさせていただけたら幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

第9回 教育・保育力向上研修 「保護者対応～発達が気になる子どもの育ちを共に支えるために～」 (12月15日)

去る12月15日(金)の教育・保育力研修では、浦和大学の岡本仁美先生より、発達が気になる子どもの保護者の支援についてご教示いただきました。保護者の言動の裏にある背景に思いを馳せ、関わっていくことの大切さについて話されました。

【保護者の気になる言動の背景】

母親(父親)がストレスを抱えている

- ・時間に追われる・家庭内の対人関係
- ・誰にも認めてもらえない・思い通りに事が進まない
- ・自分の存在感がない
- ・子どもの成長、発達が気になり育児に自信がもてない
- ・経済的不安・やりがいがない・仕事と家事が両立できない 等々

母親(父親)自身が心身に課題を抱えている

- ・発達障がい・精神的課題
- ・セルフエスティーム(自尊感情)の育ち

例:職員への不信感を激しく口にする

その背景には・・・

- ・自分の苦しさをわかってもらえない孤立無援感
- ・我が子の将来に対する激しい不安



自分を責める気持ち



防衛本能

周りを批判することで自分の苦しさから逃れようとする

「ヘルプ」を求める心の叫び、自分のつらさや葛藤を理解してほしいという願い

保護者からの厳しい言動は、上記のような保護者自身の背景に原因があることも。先生方は必要以上に自分を責めず、仲間を責めず、保護者の背景にも目を向けながら、目の前の困ってる子どもの手立てを一緒に考えていこうという姿勢を共有することが大切です。また対応方針を管理職の先生を中心に職員間で共有し、一人で抱え込まない、一人で対応しないシステムづくりが必要でしょう。場合によっては他機関とつながることも大切です。園だけで解決が難しい場合は、私たち「いっぽ」にご相談ください。他機関との連携も含めて手立てを一緒に考えてまいりましょう。